

点訳通信

116号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者 竹下 亘

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028 (点字製作係直通)

先日、東京出張した時のこと。不運にも台風2号の影響で新幹線が半日間運休止、それにより午後の発着が乱れていました。案の定、私も駅に到着してから2時間近く足止めにあい、その間、待合室で待機することになりました。そこは、障害のある人やその家族が主に待機するところだったようで、比較的静かな部屋でした。しかし、その静けさがかえって私たちの不安を掻き立てていました。情報が入らず、今、どの新幹線が出発したのか、私たちはちゃんと予定通り乗車できるのか、といった心配でいっぱいになっていました。

そんな時、同じ部屋にいた方が、ガラス越しに見える電光掲示板の情報を、目を凝らしながら読み上げてくださったのです。すると、その場にいた人たちも心が軽くなったのか、安堵の声が聞こえてきました。

日頃から情報を得ることに意識しているつもりですが、特に、有事の際の情報確保には工夫が必要だということを考えながら、帰路につきました。 (点字製作係 奥野真里)

休館等のお知らせ

7月15日(土)	月曜指定祝日の振替休室
8月11日(金・祝)	山の日のため休館
8月12日(土)～16日(水)	夏期休暇ため休館
8月22日(火)	職員全体会のため午後休館
9月23日(土・祝)	秋分の日のため休館
9月29日(金)～30日(土)	日本ライトハウス展のため休館

※9月16日(土)、10月7日(土)は、月曜指定祝日の振替の土曜日にあたりますが、通常通り開室します。

(C) WANPUG

専門点訳講習会「点字の世界を追求する触知コース」レポート

パソコン点訳に慣れてしまい、実際の点字に触れたり見たりすることがめっきり少なくなっていないですか。もっぱらパソコンの画面や、墨字印刷した点字資料を見て確認することが大半だと思います。しかし、これでは本来の点字の特色を生かした点訳がなされず、読みにくい点字書になるという懸念があります。そこで、改めて点字の特徴を問い直す講習会にしたいと考えました。

当日は実技を多く取り入れ、手書きで点字を書き、点字に触れたり点図を丁寧に触って確認したり、立体物等を手で確認する方法などの実体験を行いました。触れた時の感覚や平面・立体の物の触れ方を知る事で、点字図書のレイアウトや点図の書き方を考える際のヒントにつながるといったからです。

講習会は5月18日、25日(木)と、6月24日、7月1日(土)のそれぞれ2日間のコースを2回行いました。以下、講習会に参加されたボランティアの方の感想です。



実体験で再認識したレイアウトの重要性

中安 龍夫(土曜日)

受講の動機は点訳作業の校正で、ベテランの方から、マス空けや行空け、文章のレイアウトに関して読み難いので修正するよう指導されるのですが、今ひとつ実感が伴わないことがあったからです。

1日目は先ず点字板を使って点字を打ち、自分で触って確かめるところから入りました。といってもいきなり点字を触知することは不可能で、「め」だけをいくつも並べて打ちます。自分の打った点字を触知して「め」のような文字は認識できますが、果たして6個の点のうち1個が無い文字が混じっていても、気がつくのかは全く自信がありませんでした。

次に予め作成された点字を触知で読むのですが、点字用紙の上には別の紙でカバーがされていて、目で見ることにはできません。人差し指の腹に全神経を集中しますが、はっきりとは分かりません。今までにこれほど人差し指の触覚に神経を集中したことがあったのだろうか？子供の頃やった粘土遊びか？そう言えば陶芸家の人達は得意かも…。そんなことを考えてしまいました。暫く続けていると、「れ」と「ふ」の違いは分かるようになってきました。しかし、「あ」や「わ」のように点がひとつしかない文字は難しいです。点がひとつしかない頼りない感じがしますし、点が1個あることは判っても、その1個の点がどの位置にあるのかが非常に難しいです。また、空白については1マス空けに比べて2マス空けのインパクトが強く、はっきり区切りがあることが分かり、空白の重要性を認識することができました。

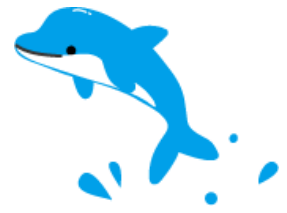
2日目は箱の中の品物を触知で何かを当てるという課題を行いました。指で触れて形、温度、肌触り、重さなどを感じ取り、振って音を確認します。確信がもてたのは最初の飲み物のアルミボトルだけでした。次に出てきた布製の招き猫や、最後に出てきた小さな陶器の犬の置物は全く見当が付きませんでした。特に犬の置物は最初渡された時、箱の隅に置いてあり箱に手を入れて直ぐには触ることができず、暫くの間は何も入っていないのではないかと半信半疑でした。20秒ほど手探りをして、ようやく触ることができました。しかし、いくら触っても突起物が多いという印象しか残らず、想像の枠を超えていました。

最後に講師の方から「点字ではどこに情報があるのかを探るのに時間がかかることがある」と説明がありましたが、真にこのことを実感した体験で、点字におけるレイアウトの重要性を再認識できました。

点字教科書製作のご協力に感謝

～ かわいいおたよりにエールをもらって

令和5年度に使用される点字教科書を、この春に各児童・生徒のところへ無事に届けることができました。引き続き、残りの製作をご協力いただいている方もいらっしゃいますが、このように多くの視覚障害児童・生徒に点字教科書が届けられることをありがたく思います。



(C) WANPUG

6月末時点で、小・中学校、高校合わせて約130タイトルの教科書を完成し、納めています。年々地域の学校で教育を受けたいという児童・生徒が増えていますので、今後も皆様のご協力をよろしくお願いします。

日々の教科書点訳において、種々難解な課題に直面されていることと思います。「はたして、このような点訳で理解してもらえるのだろうか」という思いと格闘されている方も多いかもかもしれません。そうした中、実際に点字教科書を使用されている小学校4年生のお子さんからお手紙をいただきました。また、そのお子さんと一緒に学ぶお友だちからの感想も併せてご紹介します。

★A君からのお手紙

国語の教科書や書写の教科書、社会の教科書を点訳してくださってありがとうございます。

国語の教科書は音読などで使わせていただいています。

書写の教科書は毛筆や書道で使わせていただいています。

道徳などの教科書は、学校の授業で使わせていただいています。

算数の教科書は図があつたりして難しいところがありますが、なんとか乗り切れています。

(C) WANPUG

★A君のお友だちからのお手紙

ライトハウスの皆さんへ

- ☆ 書写の教科書の立体の字を、目をつぶって見たら、字が分かりました。すごいと思いました。
- ☆ 国語の教科書を作ってくれてありがとうございます。漢字とかがすごくて、ビックリしました。いろいろなものを作ってください、ありがとうございます。
- ☆ 算数、国語、社会の教科書を届けていただいて、A君といっしょに勉強できることが、とてもありがたいです。
- ☆ A君の教科書は大切に使わせていただいています。1年間ありがとうございます。
- ☆ いろいろな教科書を考えて作っているのので、これからも頑張ってください。よろしくお願いします。
- ☆ 目の見えない人たちがちゃんと学習できるように作られていて、いいと思いました。

.....

点訳・校正のカフェブレイクに！ その6

～ 点訳挿入符は便利だけど、使い方に注意！ ～



点訳者が図やイラスト、漢字の説明など補足を加えたい時に用いる点訳挿入符は、点訳者が読者に注釈を補える便利なツールです。しかし、使い方には十分配慮する必要があります。

そもそも点訳挿入符の内容は、原本には書かれていない語句や文を挿入して補うわけですから、原文のリズムを崩したり、作者が意図していない表現を盛り込んだりしてしまう恐れがあります。そのため、補足する場合は、内容、挿入個所や頻度を十分吟味しなくてはなりません。

今回は、同音異義語の漢字を説明する場合について考えてみます。主に2つのパターンが挙げられます。

- ① 同音異義語が同じ文、段落に出てくる場合
- ② 当て字や、読者が推測しにくい漢字が用いられている同音異義語などのケースです。

①は、文脈によって漢字の説明をするかどうかを検討します。そして、同時に同音異義語が使われていても、文脈からどの語が書かれているか類推できる場合は、できるだけ点訳挿入符は控えます。あらゆる同音異義語に補足が必要なのではなく、補足は最小限に留めるのが望ましいです。

- ②は、どこにどのような説明を加えるかが重要です。注意したい点は次のとおりです。
- ・漢字の「偏」や「つくり」など、形を説明する補足は避け、同じ漢字を使った熟語や意味を説明に取り入れる。
 - ・できるだけ本文の読みと同じ音で説明を加える。
 - ・何度も点訳挿入符が開いたり閉じたりすると煩雑になり、本文の流れを止めてしまうため、使用頻度はできるだけ少なくする。

なお、同音異義語が1冊を通して繰り返し出てきて、どの語か読み分けることが必要な場合は、必ずしも点訳挿入符ではなく、特定の語をカギやカッコなどの記号で囲んだりする方法もあります。この場合は、予め凡例などで断り、同じ書籍の中に出てくる他の記号との兼ね合いにも十分注意することを忘れずに行ってください。

.....